

令和元年度 第2回 川口市学校給食運営審議会議事録

1 日 時 令和2年2月5日（水）午前10時00分～午後12時30分

2 会 場 川口市立戸塚南小学校 2階 視聴覚室

3 出席者

川口市学校給食運営審議会委員 12名（定数15名、うち3名欠席）

嶋根 謙太（学校法人嶋根学園川口しらぎく幼稚園長）

秋山 毅一朗（川口市保健所生活衛生課食品衛生係長）

吉田 ヤエ子（川口市食生活改善推進員協議会副会長）

伊藤 政久（川口市立安行東小学校長）

小澤 英敏（川口市立戸塚東小学校長）

高村 美恵（川口市立戸塚南小学校長）

山名 勝敏（川口市立仲町中学校長）

坂崎 茂（川口市PTA連合会副会長、川口市立芝西中学校PTA会長）

クレッグ 礼子（川口市PTA連合会副会長、川口市立里中学校PTA副会長）

豊嶋 伸次（川口市PTA連合会副会長、川口市立朝日西小学校PTA会長）

梅田 由香子（公募）

栗原 亜美（公募）

教育委員会事務局 9名（うち4名早退）

茂呂教育長、山田学校教育部長、内田学校保健課長、北川管理係長、

宮下給食第1係長、大和給食第2係長、阿部指導主事、鈴木主任、高木主事

合計21名

※欠席者：3名

※傍聴者：1名

4 概要

(1) 開会

(2) 挨拶

ア 教育長

イ 会長

ウ 戸塚南小学校長

(3) 議事

事務局より川口市学校給食運営審議会条例第8条第2項に基づき会議が成立している旨の報告後、以下の審議がなされた。

議題1 令和元年度学校給食表彰について

管理係長が説明。

議題2 学校における食に関する指導について

指導主事が説明。

議題3 令和2年度学校給食の運営について

給食第1係長及び給食第2係長が説明。

○質疑応答

委員：議題1について、センター配送校も表彰されているが、こういった評価項目があるのか、また表彰校はどういった取り組みをしているのか。

事務局：評価項目について、自校調理校とセンター配送校では栄養士の有無があるためそこで差が出ないように衛生面や食指導の推進状況を中心に評価している。今年度埼玉県の優良学校表彰を受けた新郷東小学校は、図書館教育を給食指導・食指導に積極的に導入しており、夏季休業中に実施した親子給食会では、絵本に登場するレシピを実際に調理してみたり、日頃の食指導の導入段階に関連する絵本を活用するなど、県内でも稀な取り組みを行っていた。センター配送校が優良学校表彰を受けるのは非常に珍しいことである。栄養士が不在のセンター配送校でも、学校の特色を生かした給食指導・食指導を推進している点が県教育委員会でも評価されたのではないかと考えられる。

委員：議題3の米飯給食回数について具体的にお聞きしたい。

事務局：週5日のうち、主食がご飯の日を3日、パンと麺の日を各1日としている。

議長：子供の様子や保護者としての所感をお聞きしたい。

委員：本町小学校に通っている娘は好き嫌いが多く、給食でも、好物はおかわり

しているが、嫌いなものは少なく調整してもらっているようで、子供達が無理なく食べられるよう配慮していただいて有り難い。また、学校の取り組みとして、クラスで残菜をゼロにすると「食缶空っぽ賞」がもらえるらしく、それを貰うために頑張っているようだ。他にも、バイキング式の給食や行事にちなんだ食事、デザートなどをとても楽しみにしている。

委員：同じく、本町小学校に子供が通っている。入学時にあった保護者の給食試食会では、子供がきちんと食事ができているか、残さず食べられているか心配だったが、6年生で行われた親子給食会では、子供達が率先して配膳や片付けを行い、協力して「食缶空っぽ賞」を獲ろうと進んでおかわりを申し出ている様子が伺え、成長を感じる事ができた。また、食品ロスや配膳、洗い物、リサイクルするための牛乳パックの捨て方など、給食でこんなにも多くのことを学んでいることを知ることができ、有り難く感じた。

委員：小学校1年生の息子は、給食が楽しみで学校に通っている。1学期は自分の限界を知らずに、おかわりして食べていたが、級友と食事をする中で、自分のペース配分を身につけ、2学期からは自分で食べられる量を調節し、食べる事ができていた。

委員：中学校3年生の娘がいる。小・中共に自校調理校に通っており、給食が本当においしいと喜んでいる。年頃なのか周りの子は小食気味なのに、今でも男子に混ざっておかわりをしている。運動部で体力を消耗するため食べるのだと思うが、毎日バランスの取れた食事がいただけているので保護者としても大変助かっている。

委員：中学校3年生の娘がいる。栄養価を抜きにしても、大人になった時に会食等で苦勞することのないよう、給食で出たものは食べたほうがよいと話している。家では一切摂らない牛乳やトマトも、給食で出るとしっかりと食べているようだ。また、今は症状はないが、園児の時は食物アレルギーがあったため、個別に対応してもらい大変助かった。センター配送校だと難しいかと思うが、小・中学校でも対応していただけると多くの家庭の助けになると思う。

議長：給食に関して、学校独自の取り組みがあればお聞きしたい。

委員：本校では、給食委員の生徒に割烹着の点検や配膳員の補助をしてもらっている。また、残菜ゼロを目指しており、最初に配膳された量がどうしても食べられない場合は、始めに食缶に戻し、他の生徒がおかわりをする形をとっている。ただし、多国籍の生徒が通っているため宗教上の理由で食べられないものがある生徒がいる。中学校だと給食の時間が非常に短いため、

早く食べなければならないことが課題となっている。

委員：本校独自の取り組みはないが、アレルギーに関しては担任を中心として気にかけており、掲示板等を活用し誤食のないよう注意している。

委員：センター所属の栄養士に、年3回各学年の給食喫食時に食指導をお願いしている。その際、センターで使用している大きいしゃもじを持参していただいたり、実際に調理している様子を写したビデオを流すなど、給食が調理員の手で一生懸命作られていることを児童が身近に感じることができている。また、学校保健委員会に栄養士にも参加してもらい、保護者に向けて説明をお願いしている。アレルギー対応については、児童も協力して確認してくれている。食の細い児童も多くなっているため、本校でも喫食時間を確保することが課題となってきている。

議長：本市の学校給食におけるアレルギー対応について、説明をお願いしたい。

事務局：これまで各学校に食物アレルギー対応を一任していたため、熱心に取り組んでいる学校と事情により対応が困難な学校とでアレルギー対応に差があるのが現状であった。現在、対応が不足している学校の手助けをすべく、今年度より学校給食アレルギー検討委員会を設置し、養護教諭や栄養教諭を中心に、登校から喫食後までの1日のフローチャートを示せるような、マニュアルの作成に取り組んでいるところである。令和3年度には、各学校校へ配布できるよう準備しており、食物アレルギーのある児童生徒も安全に安心して学校給食を喫食できるよう取り組んでいる。なお、マニュアルはあくまで最低基準であるため、現状マニュアル以上の取り組みを実践している学校については、引き続き、その取り組みを実践していただきたい。

議長：現在行っているアレルギー対応食の対応方法についてお聞きしたい。

事務局：自校調理校29校でアレルギー対応食の提供を行っている。提供を受けるには、医師の診断を受けて「学校生活管理指導表」を作成・提出してもらい、各校で設置しているアレルギー検討委員会にて、学校でどこまで対応できるのか（除去、代替食等）検討する必要がある。なお、市全体で食物アレルギーのある児童生徒がどの程度いるのかは把握している。

事務局：給食喫食時の事故を避けることはもちろん、今後、アレルギーを持つ児童生徒が大人になった時に困らないよう、自分で除去して食事ができるよう、そういった観点からもマニュアルの作成を進めている。

委員：市立高校附属中学校は市立中学校なのに、給食を実施しないのはなぜか。

事務局：調理室、配膳室、配膳用トラックの搬入口など給食を実施するために必要な施設設備が存在しないため、現時点で実施することが困難である。

事務局：附属中学校は高等学校の施設の中にできるため、そこへ通う生徒へは高校生と同じ生活をしてもらうことを想定しており、給食は実施しないが、学食やカフェテリアを利用することが可能である。

(4) 戸塚南小学校給食実施概要説明

戸塚南小学校栄養主査が説明。

○質疑応答

なし。

(5) 学校給食試食

(6) お礼の言葉（副会長）

(7) 閉会

(以下余白)